

福田寺だより

現代寺事情

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 福田 田 寺

住職 橋本尚信

『寺が消える』のは本当だった

住職 四国旅行記より

晩秋の四国路に故あって友を訪ねた。四国大橋を渡るのは初めてである。生憎の雨模様であったが、その壮大さは、小さな人間がよくも造ったものだと驚かされる威容さである。滞在地は讃岐（香川県）の山間の町であり、高松からも少し離れている。せいしか、のどかで時の流れもゆったりしている。

友の案内でいくつかの寺院を参拝させて頂いた。その中で一つ衝撃を

受けた寺がある。その寺は背後に一山を持ち広大な敷地の中に十棟を超える甍を連ねる大伽藍を呈している名刹である。数年前までは真言宗でも名だたる僧侶の住坊であった。もっとも、その僧は各地で真言宗の作法を教えるため出張が多く、自坊に居たのはわずかであったようだ。その僧が数年前に亡くなったのである。さて、私たちが訪れた時は、その数年の間に瓦は落ちかけ、庭の左右に

対峙する見事な大松の片方は枯れ落ち、閉め切った建物が風雨にさらされて朽ちるのを待っている状態なのである。どうしてこうなったのか聞くと、住職亡き後、あとを継ぐ者がなくこのような状態になっているとのこと、理由は簡単、檀家ゼロで食べて行けないのである。農地開放前は十数町を所持していたとの事。

この寺の現状を見たとき、何とも言い様のない思いが私の体をよぎったのである。これでいいのだろうかどうしてこうなってしまったのだろうか、何か方法はないのだろうか。一泊二日の讃岐路の旅は、友の暖かい接待で素晴らしいものであったが、ただ一つこのことが私の胸にボツカリと穴の空いたまま帰路についてたのである。そして関東の僧侶方にかんじて欲しいと思ひ、見てきた現状を多くの方々に話しているのである。

* * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *
 * * * * *

最近の広告に見た
 現代墓地事情

生々命(いのち)の尊厳とは何か

「私たちが夫婦は 遠い田舎の

先祖代々の お墓には

入りたく ありません

「子供のいない 私には

お墓は もてないのですか」

このような声に承えて 東京四谷

〇〇宗〇〇寺〇〇の会は、個人のた

めの生前墓「水の苑」を提案します

永代供養他一式 七十万円

(ただし一定期間後は合祀)

：：：：

右の広告は、十二月四日の読売新聞に載ったものです。この広告を見て住職は愕然としました。確かに様々な事情で田舎の墓地を整理して、住所地の近くにお墓を持つ家庭は増えていきます。しかしその人々は、い

たしかたなく先祖代々の墓地を廃棄してきているのだと思います。少なくとも、先祖代々の墓に入りたくないからということとは特別の事情を除きないと思います。

では、何故このような広告が載ったのでしょうか。これは〇〇寺の営業(商売)に走った結果の文言だと考えます。今や世間では、人の生命(いのち)に係わるものが売り買われる時代となりましたが、それはそれで必要性があつてのことと止むを得ぬものと思えます。しかし、お寺は絶対に商業ベースに乗ってはいけない聖域であるべきです。なぜなら、人の生命に深く関わっているからです。人の生命の大切さを説くこ

とであつて、値を付けて軽視することではありません。

では、何故このような広告がまかり通つているのでしょうか。それはお寺や仏事に關することに對し、正しい情報が少ないからです。と同時に私たちが、出来るものなら「死」について、又葬儀に係わるお寺について、避けて通りたいと思つてゐるからではないでしょうか。しかし、私たちは必ず一度死にますから、その場に直面してあわてて葬儀や墓地のことについて取り繕うことになるあわてて取り繕つたりするから手近にあるものに飛びついてしまふ。広告の力の發揮するところである。価値観のマヒした状態であわてて判断して満足のゆくものが得られるはずはありません。後悔することになる。結果—お寺や仏事のことほどとも・・・ということになる。

お互い勉強不足なのである。これを解決するのはただ一つ、常にお寺と縁をもっていることである。氣にいらなければ他のお寺を探す・このくらいの余裕は欲しいものである。ただし次のような例もあると聞くからご注意を！

三十数年前にお寺の墓地を求めた。しかし、納骨していないので一度も参詣したことがなく、ただ年に一度維持費を納めるだけであった。霊園感覚で安心していたのだろうか。その当主が亡くなって、いざ墓地の使用という段になって、三十数年間のお寺への非礼が出てきた。お寺からの忠告を受け、後を継ぐ人の裁量で墓地を手放し、結果当の本人はお墓に入れなくなったとのことである。当然の帰結でしょう。

自分とお寺やお坊さんとの関係をちよっと振り返ってみてもいいかもしれませぬ。

お尚さんのひとりごと

1 世の中随分と大変な事が次々と起きてますね

2 特に今年は経済界での異変がありましたね

3 例えば銀行の倒産や証券会社の倒産、総会屋への利益供与

4 何でも原因はあるんでしょ

5 そりゃ経済学者に聞いても理解出来ない程世の中複雑だわな

6 そりゃ物事が起きる時は必ず原因があるさ。これお釈迦様の時代から言わてること

7 原因があつて、いろいろな縁が働いて結果が生ずる、これ因縁と言うオホン

8 つまり原因と結果の関係で全てを見ようとするのは誤りで一切の物事、事物は因縁によって生じ因縁によって出来てるってことかな

9 すると因縁により成り立っているものは何一つとして永遠に存在しているものはないってことになるじゃろ

10 物事の存在は全てそれだけであることなく相寄りそつて出来てるってこと

11 我々が執着するのは固定的な永遠に続く存在に対してであるから、この存在がないとい

12 何もないってことになるな

13 すべて常に変化している存在であつて、固定的な存在は一つとしてないものである

14 まさにその通り見よ、バブルも永遠には続かなかつたじゃろ

15 着した人がバカを見たんじやな

16

17

18

19

20

新年厄除け薬師護摩供養

白し込み受付中

一月八日午後一時より修行

真言密教には、病気を主に他のあ

らゆる苦しみから逃れる手段として

薬師如来を奉り、一切の苦難の原因

を取り除く護摩供養が、千数百年の

間連綿と受け継がれています。

福田寺の本尊は、この薬師如来さ

まで、古来よりその靈驗は近在に知

られております。新年恒例の薬師護

摩供養会を下記の要領で修行いたし

ますので、護摩ご希望の方は申し

込みください。檀家以外の方でも勿

論結構です。

記

期日・・・一月八日、午後一時より

祈禱料・・・三千元

祈禱内容・・・厄難消除（厄よけ）

身体健全、病魔退散、家内安全、

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

学業成就、合格祈願、安産祈願、

子授け祈願、その他

申し込み・・・一月七日まで、電話可

電話 0465(36)2755

FAX 0465(37)6688

平成十年厄年

男性

前厄 昭和三十三年生まれ

本厄 昭和三十二年生まれ

後厄 昭和三十一年生まれ

女性

前厄 昭和四十二年生まれ

本厄 昭和四十一年生まれ

後厄 昭和四十年生まれ

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職に

より新年の御祈禱が修法されま

すので、ご自由に初詣下さい。

尚、年賀等一切不要ですので念

の為。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、

暮れのお参りの時に、本堂入り

口に用意された納め場所に納め

て下さい。特に大きなものや、

燃えないものは、寺の者に連絡

してください。

おむすびを誦む△△

毎月十五日

夜七時半より一時間

参加費用 一人百円

次回 一月十五日

お気軽にどうぞ